

「第3回京丹後市庁舎増築棟整備基本計画検討会議」委員意見等

- 開催日時 令和3年12月13日（月）午後1時30分～午後3時20分
- 開催場所 京丹後市役所 2階 201～203会議室
- 出席者氏名

・京丹後市庁舎増築棟整備基本計画検討会議

徳田隆男委員、中江吉徳委員、行待佳平委員、土出尉恵委員、和田直子委員、
富倉江里子委員、小西恭子委員、木本紘史委員、古野さつき委員
(学識経験者)

川久保俊委員、山内正人委員

○次第

- 1 開会
- 2 委員長挨拶
- 3 議題
 - (1) 庁舎増築棟整備基本計画（案）について
 - (2) その他

◆...検討会議における確認事項...

- (1) 基本理念と5つの基本方針（概念図含む）

【附帯意見】※次回の検討事項

・今後、生物との共生、生物多様性の保全といった観点も重要となってくるため、基本方針4「脱炭素社会の実現を目指す」を「脱炭素・生物共生社会の実現を目指す」にされてはどうか。

- (2) 建物の配置

事務局案のうち④案で確認（異議なし）

- (3) 集約化

事務局案のうちB案・C案のポイント（ねらい）で確認（異議なし）

※具体的な部署の配置については事務局に一任

◆...「京丹後らしさ」及び「求める機能等」に関する意見...

- ・子どもたちへの郷土教育が古くからずっとされてきたというのが特徴としてある。次世代のために力を合わせられるということがこの丹後としては一つの特徴があるのではないか。例えば、機械工業協同組合さんとかが、次世代のものづくりの教育をいろいろなところでやられているが、そういった次世代への教育というのが市民の皆さんに見える化できるように、こういった教

育スペースがガラスでもよく見えるようにしてはどうか。

- 丹後の歴史が学べるスペースがほしい。市民局など各庁舎にもあってもいい。子どもたちがここに来たら学べるという部分も含めてこの庁舎に来たらすごい楽しみだなというものがあれば良い。
- 歴史を感じるスペースは必要。丹後らしさというイメージでは「丹後七姫」。織物も歴史が深く、そういった伝統的なものや資料、学べるスペースがあったほうが良い。
- 障害を持った方の雇用につながるカフェ
- 学生が勉強できたり、歴史を感じられるようなフロア（コミュニケーションスペース）
- 歴史の勉強もそうですし、観光に関しても観光案内も兼ねて、外の人に来て説明してもらい、その時に丹後の歴史も学んでもらえるようなスペースがあると大変良い。広いスペースで勉強や案内の場を充実してほしい。
- 京丹後は健康長寿のまち。高齢者や障害者にやさしいスペースをつくっていただきたい。例えば、高齢者や障害者を対象にしたスペースは2階ではなく、車椅子や杖で歩く距離が少しでも短くなるような配置が良い。
- 最初は余裕があってもだんだんと物が増え、資料が増え、人も増えてという感じになるので、執務室を含め、余裕のあるスペースを確保するのが大事。
- 耐震機能、免振機能を考慮
- 丹後全体、京丹后市全体としての歴史が学べる場所。間人は海ですが船の航路とか、久美浜湾は国の天領だったとか、そういったことも勉強できたら面白い。
- 最近、スポーツも含めて、文化についても新しいことがいろいろある。スケボーなど、そういう新しい文化やスポーツ、ここでやるかどうかということは別として、そういうことがあっても良い。
- わかりやすい課の仕事の紹介。例えば、写真だったり、文書で説明したりとか、そういうスペースがあっても良い。
- いざという時に駆け込める場所、そのためには普段から使える場所となることが必要。行きにくい、敷居の高い、特別な時にだけ行く場所にならないように、一見なにか無駄に見えるような、行政の手続きをする場所以外のところでの機能を意図的に持っておくということは良い。
- まちをつくるというのは、やっぱり人ですので、住民さんがこんなことをやってみたいとか、あんなことをやっていこうというように動きが見えるというか、どんなところでどんな人たちがこんなことを頑張っているんだとか、こんなことをやりたいと思っている人がいるんだなというように見えたりとか、そこに発信すれば誰かと繋がっていけるんじゃないかと思わせるような、そういうスペースみたいなものがあると、まちをつくっていく

拠点という部分では意味がある。

- これまでからの丹後の魅力という話と、それから次世代に向けた人材教育というか、未来が見えるとか明るい未来が何か感じられるみたいな話というのもすごく素敵。
- 例えば、市役所に行けば展示物があり、それが京丹後らしさということであれば、各町のブースというか、ある程度のスペースがいるかもしれないですけど、それは場合によっては、壁に貼るという方法もあるので、本物がないといけないというよりも学べるというところを重視してもらいたい。海もあって、山もあって、田畑もあるような全部が揃っているところというのはなかなか無いと思うので、パンフレットを置いたり、市役所に行けば京丹後市の良いところが全部わかるスペースがあると良い。
- 私たちが最初お願いしていたような市民が使えるスペースが本当にあるのか。最近は大手の企業でも会議室は間仕切りがないオープンスペースにしている。Wi-Fiも使えたり、そこでちょっと会議ができたり、横に少し図書が置いてあってお話ができたりとか、子どもさんもそこで座ってちょっと寝そべったり出来たりとか、床下暖房にして、木で木造みたいにして、いざという時には避難所に使える。災害の時にはやっぱり高いところで、オープンスペースがあったほうが良い。
- 別館のほうに本庁舎と同じような設計で会議室をつくられているのは、ちょっと正直がっかりだ。職員の方中心の設計かなというイメージを受けたので、再検討してほしい。
- 全て木造というのは弱いので、鉄骨をしておいて、内装とか外装に木を使うというのはいいと思う。柔らかみのあるようなスペースでしかもオープンスペースで柔軟に変えられる使い方ができるワンフロアがあったほうがいい。
- 自分たちの子どもや孫が使うので、そういう世代にあったようなものを作ってほしい。
- 駐車場の2階部分（屋根）を全面ソーラーパネルにする。京丹後市役所では何パーセントかは自家発電ができるとか、そういうスペースがあっても良い。自然エネルギーを大規模ではなくても、その場で送電線を使わずに電気を全部使っていくという非常に効率の良い使い方を京丹後市役所から示していく必要がある。
- 電気も光ファイバーで屋上から全部取り入れたら日中は電気が必要なくなる。これがSDGsになって未来の子どもたちにも示していける。
- 今後の丹後らしさの中に移住者というのにも必ず入ってくる。今、地域おこし協力隊の方々もすごく頑張っていて活動していただいているので、こういった活動がもっと市民の方々に波及していくような何かそういったものも盛り込んでいただけるなら検討していただきたい。

- ・先日、移住相談のできる場所を紹介していただいた。そういうスペースが市役所の中にあれば移動しなくてもいいという意味もありますね。そういうことも含めて、今現在はいろいろなところで支援されていますけれども、庁舎の問題とそれを絡めてほしいという意見ですね。
- ・例えば、歴史文化を感じられる空間を、という議論から始まったと思うが、次世代のためにさらに将来につなげていくというのは、まさにサステナビリティそのもの。
- ・いざという時に駆け込める場所、そのためには普段から使える場所が必要だ
というのも本当にごもつともで、まさにSDGsの「誰一人取り残さない」
という考え方と通じる。そのための具体的なアイデアとして、例えばカフェ
みたいな場所やお子さんがもう少し集える場所などの意見があったが、私も
やっぱりそういったところはあって然るべきではないかと思う。そのほうが
より市民の皆様にあこがれをもって普段から来ていただけるような場所になるの
だろう。
- ・議論のたたき台のために平面図をご提示していただいているものと理解している。ここをもう少しこうしたほうが良いのではないかというのは、今日のご議論のようにどんどん言っていただいたほうが、より良いものになってくのではないかなと思っている。
- ・ICTも含めて活用して、可視化という視点というのは是非とも入れていただけるといいのかなと思う。
- ・京丹後らしさとかいうところで、歴史だとか子どもの教育だとか、そういう教育的なところについて意見がたくさんあったが、いかにプレゼンテーションしていくか、見せていくかというところが大事。特に1階は、誰もが通るところであり、そういうところで目につくような形で見せるというのは大事。その分、執務室が少なくなる可能性があるので、住民サービスと利便性とのトレードオフはあるが、いつ来ても1階の住民の交流的な場所で老若男女問わず講習会を開いているとか、みんな楽しそうに勉強しているところなどを親に連れられて市役所に来た子どもが見ると、京丹後市の教育ファーストを感じられるのではないか。
- ・大学の紹介をすると、校舎の建物は3階建てで、ほとんどの教室は2階、3階にあるが、1教室だけ1階にあってガラス貼りになっている。外からも丸見えの状態、近所の幼稚園児も大学の授業をガラスにへばりついて見ていたりする様子もある。小さい頃からそういうのに触れると将来の大学のイメージが掴めると思う。もう一つ、大学の特徴として、1階に一部起業した学生がオフィスに使えるガラス張りのオープンな空間がある。そういうのも外から見えるので、そういった大学の特徴のようなものが一番見やすいところにあると、この大学はこういうところなんだというようなことが、周りの人

や来た人、大学生も含めて伝わっていくと思う。

- 1階で歴史が見えるだとか、住民の交流スペースがあるだとかを可視化し、メッセージとして見せて京丹後らしさを伝えるということは大事。
- トイレは、車椅子とか体の不自由な人が利用しやすいように1階につくってほしいということも聞いている。不用心かもしれませんが外付けするとか、もう少し数を増やしていただきたい。
- 今の福祉センターは相談室が開けっ広げで、秘密の会話が筒抜けのような状態ですので、そういったことにも配慮していただきたい。可視化する部分と、見えないほうがいい部分と少し工夫していただけたらありがたい。
- 今回増築するにあたり、本庁舎と増築棟とどちらが本当の正面（入り口）になるのか。➡（事務局）どちらも正面的なところはあるが、今のところは、増築棟のほうに市民の手続きをする部門を集約していこうとしている。現庁舎には、事業課のほか、総務とか企画とかというような管理部門を置くといった考え方をもっている。
- 文化を入れるとか、スポーツも含めて、そういうことを入れるというのは間違いなくSDGsに抜けている点を先取りしている。
- 今後の潮流に鑑みると、生物との共生、生物多様性の保全といった点については、おそらく今後ものすごく重要視される。基本方針4を「脱炭素社会の実現を目指す」となっているが、例えば、「脱炭素・生物共生社会の実現を目指す」というようにしておいていただいたほうがいいのではないのか。次回、皆様でご審議いただければ良い。具体的には、今の平面図に落とし込むというよりは、今後、外構計画において、建物の周りの自然配置などをどうするのかということに関係すると思う。メッセージとして、きちんとそういったところも入れておいたほうが先取りしている庁舎であるということになると思う。